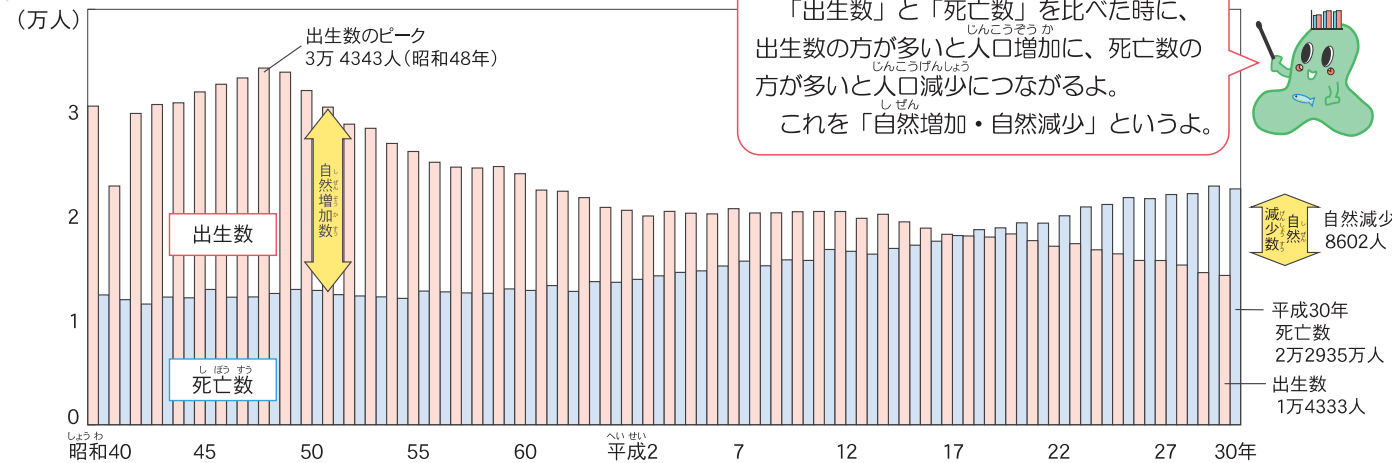




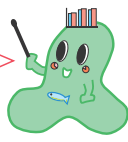
# 平成30年は死亡数が出生数を約8600人上回り自然減少が拡大 社会動態では、若い世代を中心に転出超過が続いている

合計特殊出生率が回復傾向にあっても出生数が増加しないのは、母となる女性の減少のため。転入と転出の差を比べた社会動態をみると、若い世代で職業や学業による転出超過が続く。

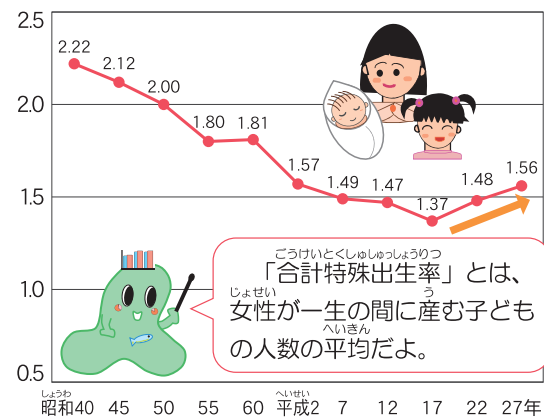
## 1 出生数と死亡数のうり変わり（岐阜県）



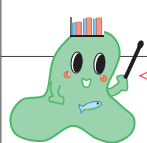
「出生数」と「死亡数」を比べた時に、出生数の方が多いと人口増加に、死亡数の方が多いと人口減少につながるよ。これを「自然増加・自然減少」というよ。



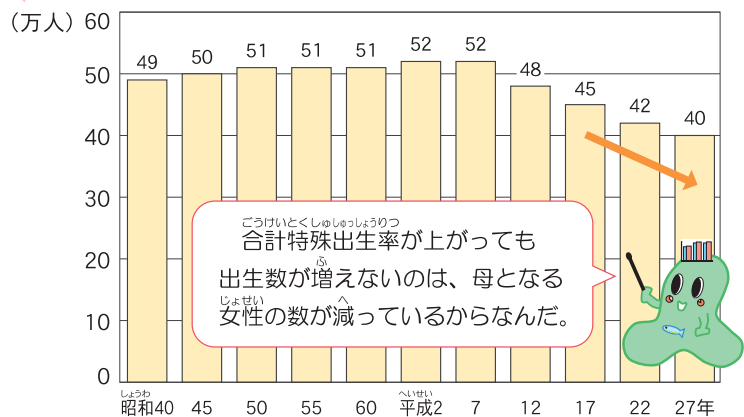
## 2 合計特殊出生率（岐阜県）



「合計特殊出生率」とは、女性が一生の間に産む子どもの人数の平均だよ。

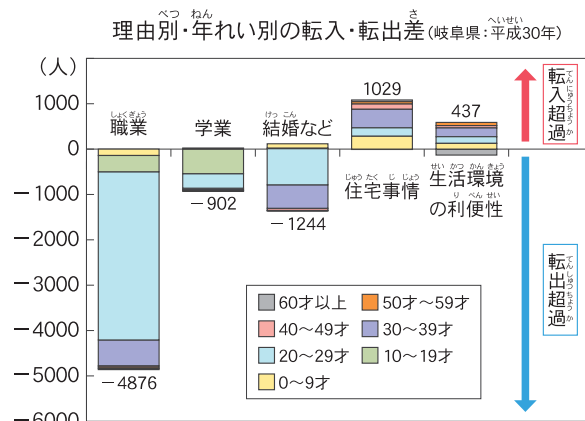


## 3 15～49才の女性の数（岐阜県）



## 4 転出超過によって約2700人の人口減少（平成30年）

平成30年の転出超過は、2690人となった。理由別にみると、20才代を中心とした若い世代で、「職業」「学業」「結婚など」を理由とした転出超過が目立つ。一方、「住宅事情」や「生活環境の利便性」では、転入超過となった。



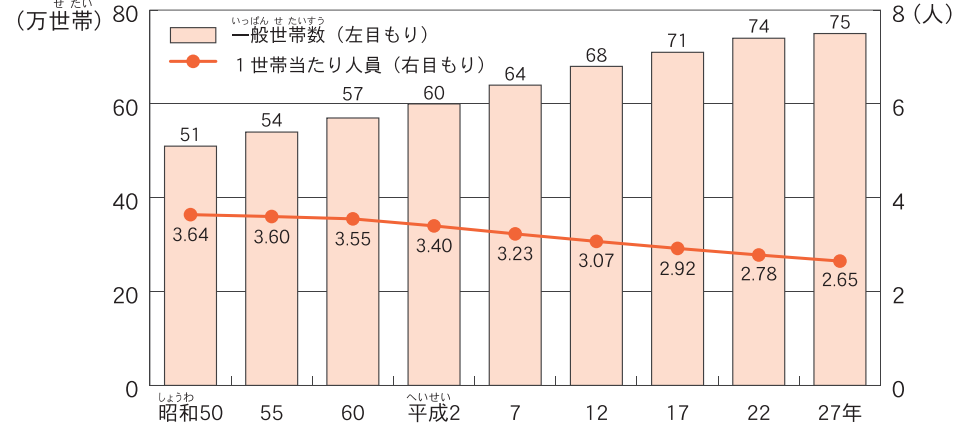
「転入数」と「転出数」を比べた時に、転入数の方が多いことを「転入超過」、転出数の方が多いことを「転出超過」というよ。転出超過によって人口が減ることを「社会減少」というんだ。



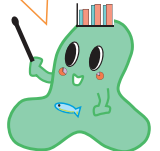
# 1 世帯当たり人員は2.65人で多い方から全国6位 小家族化は進むが、3世代同居が多く1人暮らしが少ない

人口減少の一方で世帯数が増加し、1世帯当たり人員は減少しているが、全国の2.33人と比較すると多い方。共働き率や持ち家住宅率が高いことが持ちよう。

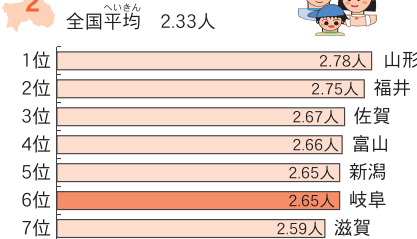
## 1 岐阜県の世帯数と1世帯当たり人員



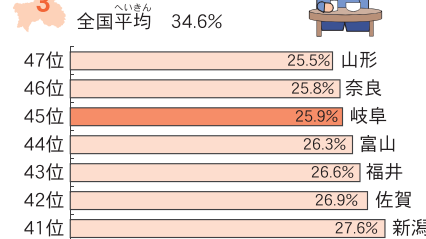
1世帯当たり人員とは、1世帯（1家族）の人数の平均で、家族の大きさを表しているよ。



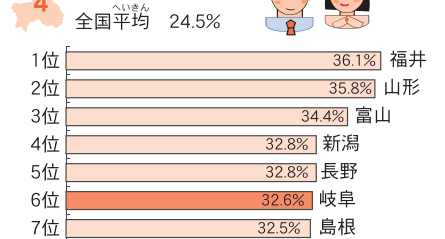
## 2 1世帯当たり人員



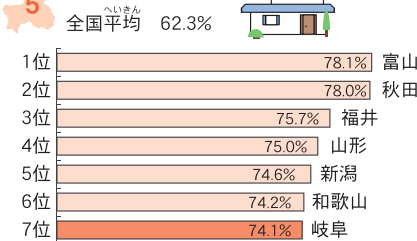
## 3 1人暮らし世帯率



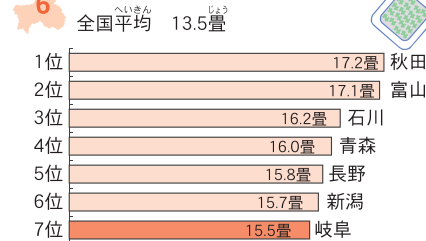
## 4 共働き率



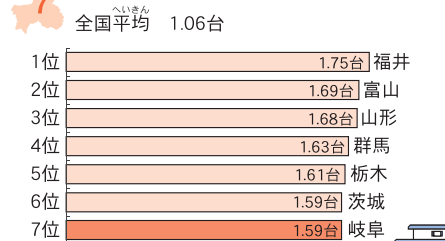
## 5 持ち家住宅率



## 6 1人当たり居住室の量数

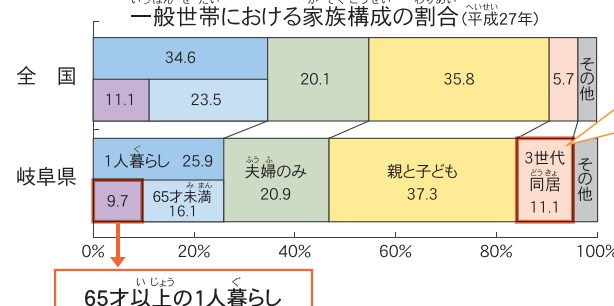


## 7 1世帯当たり自動車保有台数



## 8 65才以上の1人暮らしは、約10世帯に1世帯

全国と比較すると、岐阜県は1人暮らしが少なく、3世代同居が多い。しかし、小家族化は年々進んでおり、15年前（平成12年）には、20世帯に1世帯であった65才以上の1人暮らしが、平成27年には、10世帯に1世帯となった。



岐阜県の3世代同居率は、全国で11番目に高いよ。



（出典＝人口の動き）グラフ1：「岐阜県人口動態統計調査」（各年の前年の10月1日から翌年の9月30日までの1年間）の調査結果。グラフ2：厚生労働省「人口動態統計」。グラフ3：総務省「国勢調査」（各年10月1日現在）。（出典＝世帯と暮らし）グラフ1：総務省「国勢調査」（各年10月1日現在）。グラフ2～5：総務省「国勢調査」（平成27年10月1日現在）。グラフ6：総務省「住宅・土地統計調査」（平成25年10月1日現在）。グラフ7：一般財団法人自動車検査登録情報協会「自家用乗用車の世帯普及台数」（平成30年3月末現在）。